

放射線療法の提供体制構築に資する研究（21EA1010）

研究分担者 宇野 隆
千葉大学 大学院医学研究院 画像診断放射線腫瘍学 教授

研究要旨

JASTRO構造調査データをもとに、がん罹患数と推定放射線治療患者数を用いて2030年の我が国の放射線治療患者数、がん罹患数に対する放射線治療適用率を推定した。

A. 研究目的

2010年までの放射線治療患者数に基づく日本放射線腫瘍学会（JASTRO）による放射線治療患者数増加の予測と、実際の2010⇒2015年における患者数の増加には乖離がみられた。2025～2030年の我が国の放射線治療患者数、放射線治療適用率を推測する。

B. 研究方法

2015, 2017, 2019JASTRO構造調査データをもとに、がん罹患数と推定放射線治療患者数による放射線治療実施率から2025-30年の推定新規放射線治療患者数を算出する。放射線治療の実患者数の集計を開始したのは2005年からであり、2003年以前については、新患者数に、2005年から2019年の新患者/実患者数の平均0.8348で除して、実患者数を推計した。癌患者数推計は、がん情報サービスの癌統計 (https://ganjoho.jp/reg_stat/index.html) のデータより、がん罹患数（1990-2015年）および、2015-2039年のがん罹患数推計を用いた。

（倫理面への配慮）

人を対象とする研究内容ではないため分担研究者の所属施設では倫理審査は不要と判断され、倫理面の問題は無い。

C. 研究結果

2030年の推定がん罹患患者数は116万人、JASTRO構造調査結果から推測される実放射線治療患者数はおよそ29万人前後、放射線治療の適用率は25%程度であることが推測された。

D. 考察

2015年のJASTRO構造調査結果による推測では実放射線治療患者数は27万人で、放射線治療適用率は27%程度。2000年以降、高精度放射線治療の普及により放射線治療患者数は増加傾向であるが、人口動態、早期癌の診断数増加など、様々な要因により、我が国で放射線治療適用率は25%程度となる見込みである。

E. 結論

2030年の我が国の放射線治療適用率はがん罹患数の25%程度と推定された。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし